

特集 伊奈備前守忠次

たくましく
だいたんに
つき進む
ぐがんの士



※具眼（ぐがん）とは…物事の本質を見抜き、是非や真偽などを判断する見識を持っていること。

伊奈町という町名の由来となった「伊奈備前守忠次」。町内循環バスや町のイベントなどでその名前を見聞きした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

『広報いな』令和元年12月号では、忠次公のルーツと忠次公に関する事業を紹介しました。

本号では、改めて忠次公の足跡をおさらいするとともに、忠次公に関する町の新たな取組、忠次公の足跡に触れられる町内スポットなどを紹介します。



『広報いな』令和元年12月号▶

忠次公の略歴

0歳 忠次誕生

1550年、三河国幡豆郡小島（現在の愛知県西尾市）に生まれました。

10代 土木技術を学ぶ

13歳の時、徳川家康に仕えていた父忠家が、三河一向一揆で家康に背き三河（現在の愛知県東部）を追われると、父とともに諸国を放浪。行く先々で、土木技術を学んだと思われています。

20代 算術を磨く

29歳の時、家康の長男信康に仕えましたが、家康の命により信康が切腹したため、家康の元を離れ、堺で商家を営む叔父の元へ移りました。そこで算術を磨いたといわれています。

30代 家康に仕え頭角を現す

34歳の時、再び家康の家臣となった忠次は、家康の陣屋作りの際、優れた土木技術でその有能さを発揮し、その後も総検地などで多くの功績をあげます。

35歳の時、長男忠政が生まれました。

40・50代 治水や街道整備に尽力

代官頭となった忠次は、家康から広大な領地を与えられ、小室に構えた陣屋（現在の伊奈氏屋敷跡）を拠点に（41歳）、利根川流域の治水や新田開発などで力を発揮します。

42歳の時、次男忠治が生まれました。

53歳の時、備前堀（現在の本庄市・深谷市・熊谷市に位置する備前渠用水路）を開削しました。

61歳 病により死去

1610年、江戸にて亡くなり、勝願寺（鴻巣市）に葬られました。

忠次公に関する近年の町の取組

ご当地ナンバープレート



令和2年4月、地域の誇りや郷土愛を再確認していただくため、ご当地ナンバープレート（原動機付自転車専用）を500枚限定で作成し、現時点で300枚以上を交付しています。ぜひ、ご利用ください。

町内循環バスラッピング車両



令和2年11月には、忠次公をモチーフにしたイラストが描かれたラッピングバスが誕生。町内の北・南循環をそれぞれ1日10便ずつ運行しています。

忠次公の歴史を後世に!

～町による新たな取組～

令和3年10月22日、伊奈町・川口市・茨城県つくばみらい市は、河川改修や新田開発によって関東から東海にかけての発展の礎を築いた伊奈忠次、伊奈忠治にゆかりのある地として、さらなる友情と信頼を深め、相互の発展が長く持続することを願って、『伊奈町、川口市、つくばみらい市「伊奈氏ゆかりの地」歴史・文化的交流に関する協定』を締結しました。



(右) つくばみらい市 小田川浩市長
(中央) 伊奈町 大島清町長
(左) 川口市 奥ノ木信夫市長

令和4年12月25日には、協定締結を記念し、2市1町の首長が一堂に会し、忠次・忠治の功績や歴史などについての想いを語るパネルディスカッションを町総合センターで開催。今後は、2年に1度、各市町順番にイベントを実施する予定です。



協定締結記念展示「伊奈忠次展」を、12月10日～25日に町総合センターで実施。川口市とつくばみらい市で保管されている伊奈氏に関する歴史的資料も公開されました。

